

Ⅱ 区の現状と課題

区の創設

- ・1943（昭和18）年4月1日

区の地勢

- ・大阪市の北東部（大阪城の東部）に位置
- ・地勢的に東部の低湿地帯である旧大和川流域に属し、標高1～2mと区域全般に低く平坦
- ・東西に寝屋川と第二寝屋川が流れ、南北に城北川、平野川、平野川分水路が通じるなど、河川が多い。



区の交通網

- ・鉄道交通網では、大阪メトロ（地下鉄）谷町線・長堀鶴見緑地線・今里筋線・中央線、JR学研都市線・おおさか東線、京阪電鉄が区内を走り、交通利便性が良好。
- ・道路交通網では、東西方向に古市清水線（国道163号）、東野田茨田線（鶴見通）、片町徳庵線（城見通）、中央大通が走り、南北方向には、新庄大和川線、森小路大和川線、豊里矢田線（一部事業中）、区内中央部をカギ型に国道1号が走るなど都心へのアクセスも良好。

Ⅱ 区の現状と課題

区の歴史

・第二次世界大戦中の1943（昭和18）年4月、大阪市の22区制実施にともなう7増区の1区として東成区の北部地域と旭区の南部地域を併せて分区独立し誕生しました。

・明治時代から鉄道が開通し、陸軍砲兵工廠や紡績工場ができ、その後、次第に関連工場が集まり、また寝屋川や第二寝屋川、城北川沿いには金属・機械・化学関係の工場が集中するようになりました。また、区内内部には衣料・縫製関係の事業所も多く、生野区、東成区、鶴見区とともに市内東部の工業地帯を形成しました。



昭和40年頃の城北運河



高層住宅が立ち並ぶまちなみ

・戦後から高度経済成長期を経て、区内北東部の関目・董地区は、土地区画整理事業により、緑の多い整然とした街区となり、また西南部の森之宮地区では、かつての陸軍砲兵工廠跡地にJR・地下鉄の車庫や高層住宅団地が、さらに嶋野地区も再開発により新たな高層住宅群が出現するなど、まちなみは大きな変貌をとげてきました。

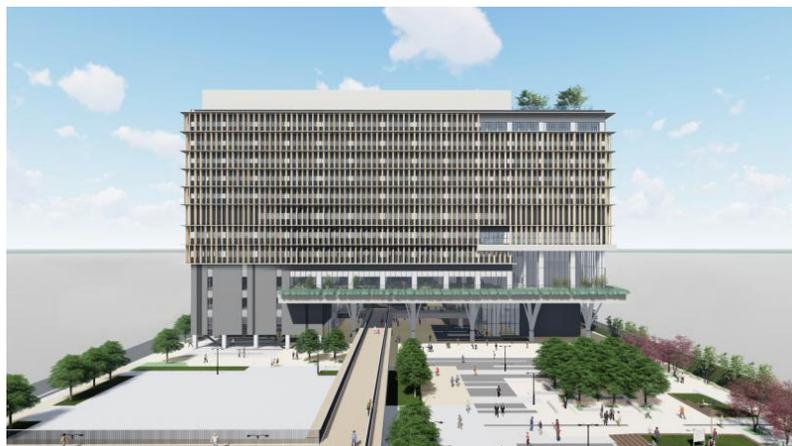
Ⅱ 区の現状と課題

区の歴史

・現在、区内各地区で工場等の転出跡地などに高層集合住宅や大規模小売店が相次いで建設され、2016（平成28）年3月には、区役所・区民センター・図書館・老人福祉センターが一体となった複合施設の供用が開始されるなど生活・交通至便な住宅地となっています。



城東区複合施設 外観



大阪公立大学 森之宮キャンパス イメージパース

・今後も、水辺環境整備、緑化の推進に加え、大阪公立大学森之宮キャンパスが2025（令和7）年度を目途に整備されるなど、多世代・多様な人が集い交流する国際色あるまちづくりが進められ、職・住のバランスのとれた区としての発展に大きな期待が集まっています。

Ⅱ 区の現状と課題



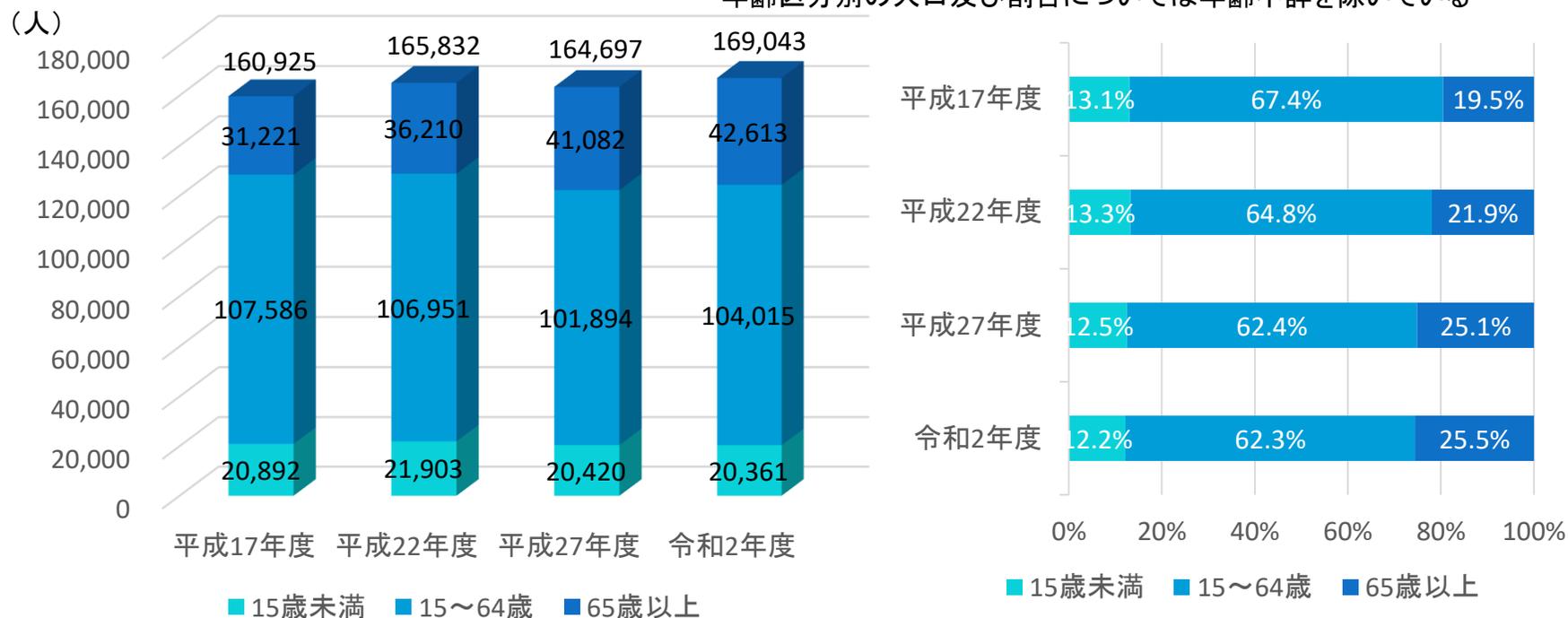
区の概要

	城東区	大阪市	(資料)
面積	8.38km ²	225.33km ²	2022.10 国土地理院
人口	167,872人	2,757,289人	2023.1 推計人口
世帯数	83,666世帯	1,508,140世帯	〃
人口密度	20,032人/km ²	12,237人/km ²	〃
外国人比率	2.92%	5.05%	2022.3末 住民基本台帳登録
人口1人あたりの公園面積	0.99m ²	3.30m ²	2022 区政概要
事業所数	5,070カ所	175,291カ所	2021 経済センサス活動調査
従業者数	52,589人	2,381,704人	〃

Ⅱ 区の現状と課題

人口の推移

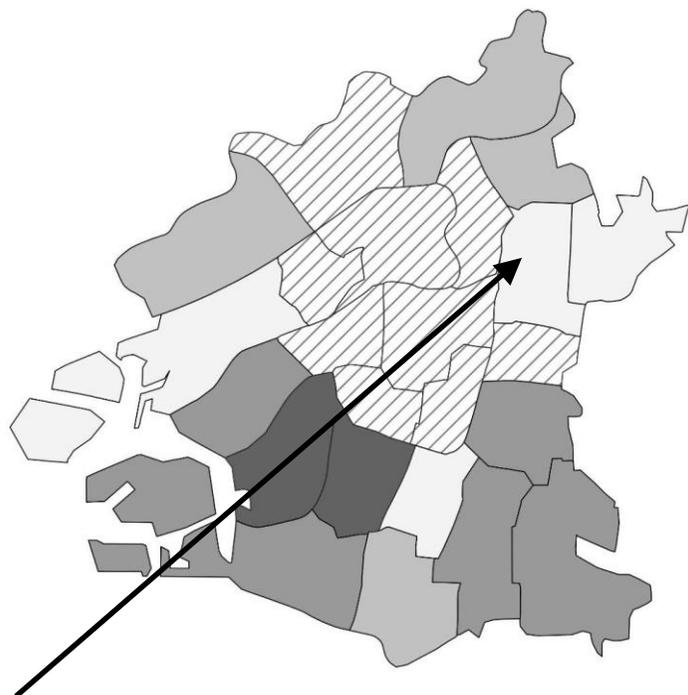
(資料)各年の国勢調査による 注)総数は年齢「不詳」を含むため内訳合計とは一致しない
年齢区別の人口及び割合については年齢不詳を除いている



・城東区の人口は、2015（平成27）年に平成2年以降初めて減少に転じたものの、令和2年度に再び増加に転じました。また、65歳以上人口の占める割合は25.5%と引き続き増加傾向にあります。

II 区の現状と課題

各区の総人口・将来予測（2015⇒2045増減率）



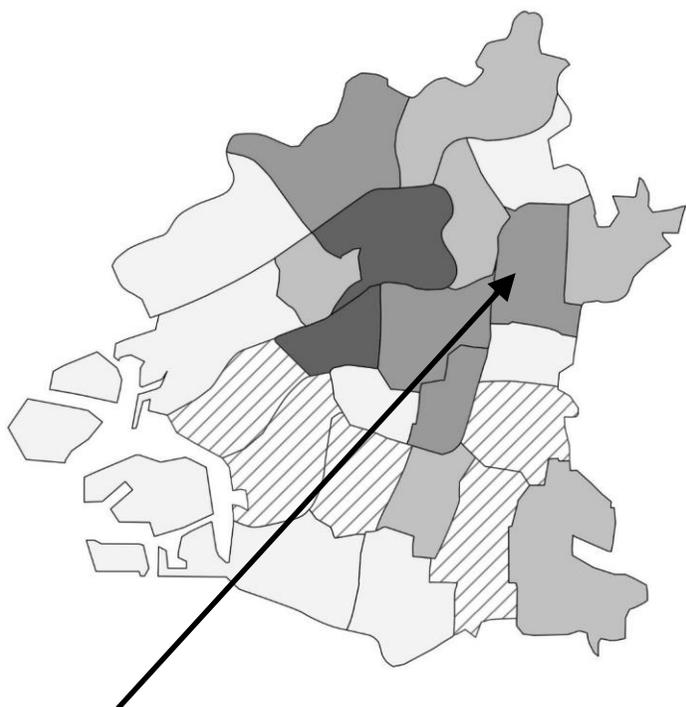
	プラス(増加)	北区、都島区、福島区、中央区、西区、天王寺区、浪速区、淀川区、東成区
	▲10%未満	此花区、 <u>城東区</u> 、鶴見区、阿倍野区
	▲20%未満	西淀川区、東淀川区、旭区、住吉区
	▲30%未満	港区、生野区、住之江区、東住吉区、平野区
	▲30%以上	大正区、西成区

(資料)総務省「国勢調査」
大阪市「大阪市の将来推計人口(令和元年度)」

- ・城東区の人口は2045年においては2015年比で減少が予測されています。

Ⅱ 区の現状と課題

各区の高齢者人口推移・将来予測（2015⇒2045増減数）



	マイナス(減少)	港区、大正区、生野区、東住吉区、西成区
	5千人未満の増加	此花区、浪速区、西淀川区、東成区、旭区、住之江区、住吉区
	5千人以上－ 1万人未満の増加	都島区、福島区、東淀川区、鶴見区、阿倍野区、平野区
	1万人以上－ 1万5千人未満の増加	中央区、天王寺区、淀川区、 <u>城東区</u>
	1万5千人以上の増加	北区、西区

(資料)総務省「国勢調査」
大阪市「大阪市の将来推計人口(令和元年度)」

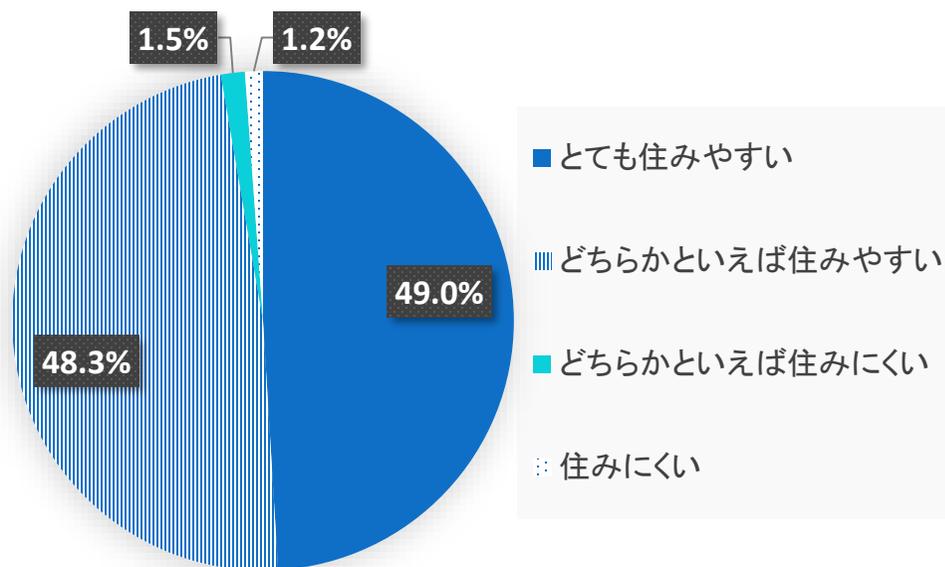
・一方、城東区の高齢者（65歳以上）人口は、2015年から2045年にかけて増加が予測されており、さらなる高齢化率の上昇が見込まれてます。

Ⅱ 区の現状と課題

区民意識

(資料)令和3年度城東区民アンケート(無作為抽出)による

●城東区はあなたにとって住みやすいまちですか。



住みやすいと感じる主な理由

鉄道やバスなど、交通が便利(40.7%)

買物に便利(26.3%)

通勤・通学が便利(9.7%)

など

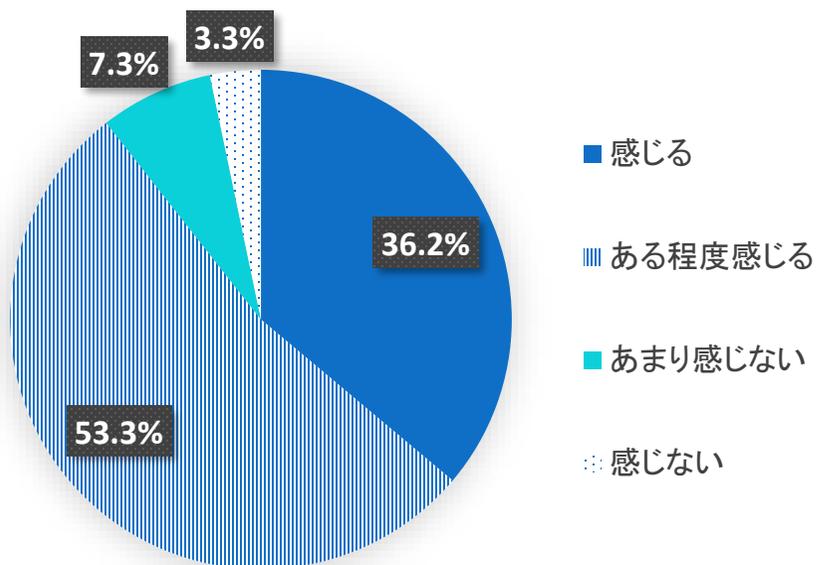
・「とても住みやすい」(49.0%)が最も高く、「どちらかといえば住みやすい」(48.3%)を合わせると、9割以上(97.3%)の方に「住みやすい」と回答いただいています。

Ⅱ 区の現状と課題

区民意識

(資料)令和3年度城東区民アンケート(無作為抽出)による

●城東区に愛着を感じますか。



愛着を感じる主な理由	
交通の便利が良いから	(40.9%)
ふるさとであるから	(18.5%)
まちの雰囲気が良いから	(17.0%)
など	

・「ある程度感じる」(53.3%)が最も高く、「感じる」(36.2%)を合わせると、9割弱(89.5%)の方に「愛着を感じる」と回答いただいています。

Ⅱ 区の現状と課題

区民意識

(資料)令和3年度城東区民アンケート(無作為抽出)による

●あなたは、城東区役所が重点的に取り組むべきことは何だと考えていますか。

項目	割合	備考
安全・安心なまちづくり(防災・防犯)	35.4%	どの年齢層でも高い割合(1~2位)である
子育て支援・青少年健全育成	17.0%	29歳以下、30歳~39歳の年齢層では最も高い割合である。
文化・歴史を活用したまちの魅力向上	1.9%	
まちのにぎわいづくり	5.9%	
地域活動の活性化	5.6%	
福祉・保健	15.9%	50歳以上の年齢層については、防災・防犯に次いで高い割合である。
緑化・美化	6.7%	
教育	3.3%	
商店街の振興	4.4%	
ものづくり支援	1.5%	
その他	2.3%	「地球温暖化」、「すべて」、「特になし」など

・全世代を通じて「安全・安心なまちづくり(防災・防犯)」が高いです。なお、39歳以下の世代では「子育て支援・青少年健全育成」が高く、50歳以上では「福祉・保健」が高い割合を占めています。

Ⅱ 区の現状と課題

区の課題認識

・前期の将来ビジョン及び毎年度の区運営方針において、「城東区に住んでよかったと思えるまち～人が輝き、活気にあふれ、まちに愛着があること～」を区のめざすこととして掲げ、各事業・施策に取り組んできました。

・現在、人口密度が大阪市内でも高く、区民アンケートでも多くの方に「住みやすい」と評価、城東区に「愛着」を感じていただいているなど、「住のまち」として認識いただいていると考えられます。

・一方、今後、人口減少や少子高齢化がより一層進んでいく状況の中、引き続き住みやすく、子ども、高齢者、障がい者などすべての人がいきいきと、安心して地域で暮らしていける地域づくりを進めていくには、地域の皆さんのご協力は不可欠ですが、地域での活動の担い手は年々減少傾向にあり、地域活動の担い手や参加者を広げていくことは重要な課題です。

・引き続き、城東区役所は、区民ニーズの高い防災・防犯、子育て、健康・福祉の分野に力を注ぐのはもちろん、区民の皆さんをはじめ、地域団体、企業など城東区に関わる皆さんと協働しながら、さまざまな課題の解決に向けて取り組むべく、皆さんが信頼できる、区民のための区役所づくりが必要と考えます。

Ⅲ 将来像と基本理念

地域としての区のめざすべき「将来像」と、その実現に向けて、基本となる考え方として「基本理念」を定めます。この基本理念を各施策・事業や取組みを進めるにあたっての考え方とします。

将来像 「住んでよかったと思えるまち～人が輝き活気にあふれ、まちに愛着があること～」

基本理念 ① 住む人、訪れる人がふれあい、きずなを大切にし、地域全体で支えあう「温かいまち」

② 住民の皆さん一人ひとりが考え、つくりあげる「住民主体のまち」

③ 誰もが穏やかに日々を過ごすことができる「安心なまち」

